

食育しんち

子どもたちの健やかな成長を願って

新地町教育委員会

『いただきます』に込める思い

新地町立駒ヶ嶺小学校 教頭 永野 忠明



四月に赴任し、毎日の給食が本当においしくて、
幸せな日々を送っております。

さて、食前のあいさつ『いただきます』の言葉には、
「あなたの命を私の命にさせていただきます」という
感謝の気持ちが込められています。

また、料理を作った方、野菜を育てた方、
魚を獲った方など、食べ物が口に届くまで関わった
すべての方々や、食事を一緒にできる家族や
友達への感謝の意味も込められています。

言い換えれば、食事を粗末にするということは、命や人への想いを粗末にすることにも
つながってしまうのかもしれません。

東日本大震災を振り返ると、避難所での生活を通して、「生きる」ために食べていたこと
を心の底から実感しました。その時の思いは、今でも忘れられません。至ってシンプルな
言葉と所作(※)ですが、そこに込められた深い敬意や感謝とともに、他の言語には見られ
ない日本オリジナルの言葉『いただきます』を大切にしたいと思います。

※ しょさ=ふるまい 身のこなし



「朝食について見直そう週間運動(6月)」の調査結果

町内各小中学校では、この期間中に、食に関する様々な取組を行い、子供たちに朝食摂取
の大切さについて指導して参りました。

常日頃から、保護者の皆さまには栄養バランスのとれた朝食、野菜の摂取等、朝食の大切
さを意識して下さり嬉しく思います。引き続き、皆さまのお力添えを頂き、子どもたちには、
望ましい食習慣を身に付けて、「健康」で活力ある生活を送ってほしいと願っております。

1 朝食摂取率

町内3小学校	98.7% (県平均 98.0%)
尚英中学校	99.0% (県平均 95.7%)
町内学校平均	98.8% (県平均 96.3%)



2 食べ方に関するアンケート

(1) 朝食に野菜を食べた児童生徒の割合

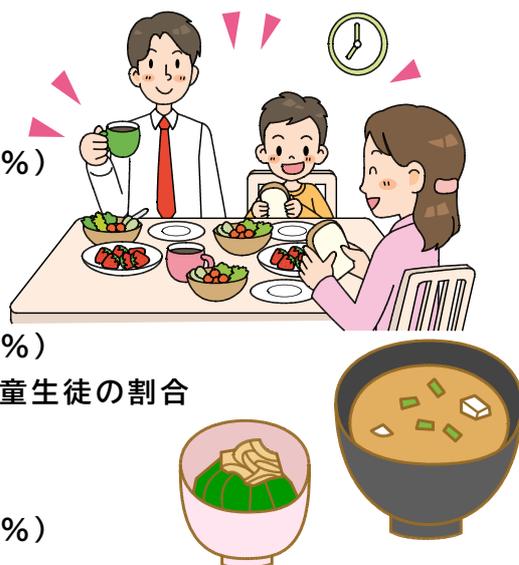
町内3小学校	61.2%
尚英中学校	55.7%
町内学校平均	59.3%(県平均 53.0%)

(2) 朝食に汁物を食べた児童生徒の割合

町内3小学校	49.3%
尚英中学校	50.0%
町内学校平均	49.6%(県平均 44.9%)

(3) 昼食以外(朝食・夕食)に誰かと食事をした児童生徒の割合

町内3小学校	97.6%
尚英中学校	88.7%
町内学校平均	94.6%(県平均 94.3%)



第1回学校給食における地場産物の活用状況調査について

地場産物の活用＝地産地消とは、その地域で生産したものをその地域で消費することです。児童生徒が、地域の自然や農業など地域への理解を深め、より深く郷土への愛情を育むとともに、新鮮で安全な食を通して、児童生徒の生涯にわたり心豊かで健康な生活の基礎を培うことを目的として、学校給食では地産地消を推進しています。

とりわけ、ここ新地町の学校給食では、保護者や地域の皆様のご理解とご協力のもと、地場産物の活用に積極的に取り組んで参りました。震災前の平成22年の地場産物の活用率は35.4%でしたが、震災の翌年である平成24年には9.3%まで落ち込みました。放射線の問題が大きいのしかかり、どん底状態となりました。暗闇の状況を乗り越えるべく生産者の皆さんを含め、地域一体となって取り組んだ軌跡については、これまでご紹介してきたところです。おかげさまで昨年は65%を越え、県の目標である40%を大きく上回りました。

さて、本年6月の結果を以下に示します。特に新地町産品の活用率の伸びにご注目ください。最大瞬間風速と揶揄されないよう、関係者と連携し、活用率の維持に努めて参ります。

新地町	県産品活用率	76.6%	そのうち	新地町産品の活用率	40.8%
県平均		48.0%			

地場産物活用は、生産者の顔が見えるという点で、地場産物への愛着、生産者への感謝の気持ちから好き嫌いが減り、残食が減る、あるいは地元生産者等とふれあうことで、地域に愛着を持ち、感謝の気持ちも育まれてきました。しかしながら、コロナ禍もあったことから、生産者の皆さんとふれあう機会が減ってしまいました。かつて、新地町の子どもたちは地域の皆様と一緒に米や野菜づくりをさせていただきました。こうしたことが地場産物への愛着、活用率の向上につながったことは言うまでもありません。

ここで改めて、仕切り直し、生産者の顔が見える取り組みを推進・実現して参ります。皆様のお知恵をいただきたいと存じます。